

生活科学学習指導案

日 時 令和元年 5月27日 (月)
児 童 1年生 男子 名 女子 名 計 名
授業場
授業者

1. 単元名「はるのふしょうのもり」

2. 単元の目標

附小の森にある身近な自然と繰り返し関わり、自然の様子を見たり、その中で遊んだりする活動を通して、その面白さや不思議さに気づき、それらを取り入れながらみんなで楽しく遊ぶことができる。

3. 単元観・児童観・指導観

本単元は、小学校学習指導要領生活編の内容「(5)」と「(6)」を関連させた単元である。

ねらいは大きく分けて2つある。1つ目は、繰り返し附小の森での活動を行っていくことで、肌で感じる温度や耳で感じる音、動物や草花、木々の様子の違いを感じ、木登りや草花遊び等の自然を用いた遊び、押し花などの表現を通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付いていくことである。

2つ目は、そうした遊びの中で、楽しく過ごすためには順番を守ること、1列に並ぶこと、道具を正しく使うことなどの約束やルールの大切さに気付くことである。

児童はこれまで、生活科「がっこうたんけん」を通して、繰り返し学校の施設を巡り、発見した「なぞ」を解決するために、よく見て触れたり、2年生や先生に話を聞いたりすることで解決を図ってきた。こうした活動を通して、学校のルールを学んだり、学校がたくさんの人に支えられていることを知ったりするなど、安心して行動できる範囲を広げてきている。本単元においては、「活動の範囲をより広げていきたい」という思いをきっかけとして、附小の森をフィールドとして、「附属小学校に春が来ているか」という視点で身近な自然と関わりながら、「こう遊びたい」という思いや願いを持ち、その実現を図るプロセスを経験できるようにする。

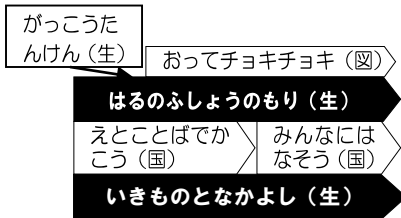
そのため、手立ては大きく2つある。

1つ目は、「対象への思いをもつための出会いの工夫Ⅰ」である。学校探検の際に、朝顔セットを発見させ、「朝顔を育てたい」「春にならないと植えられない」という春探しの必要性和予想をもとに附小の森に行くことで、自然のものに着目して関わっていくことができるようにする。そうした出会いをもとに、児童の気づきに即して、画用紙等の道具を提示していくことで、活動の広がりが生まれると考える。

2つ目は、「子供たちの思考を繋ぎ、方向性を見出させる教師の関わりⅡ」である。

「春の附小の森地図」に児童の気づきを位置付け、児童が友達の考えと自分の考えを「比べる」ことができるようにするとともに、その地図を中心に全体交流を行うことで、共有されたものをその後の活動で取り入れることができるようにしていく。また、全体交流の場で児童が発表した際、適宜、動作化を促したり、キーワード化したりすることで、考えの共有化を図っていく。

4. 学年・学級経営年間プログラムとのかかわり



生活科における直接的な体験を通して醸成された思いを図画工作科「おってチョコキチョコキ」や国語科「えとことばでかこう」「みんなにはなそう」で表現できるようにすることで、伝えたい思いをもった状態で、表現を高めていくことができるとともに、生活科で、行っていたことを表現することで気づきがより自覚化されていくようプログラムを編成している。

5. 単元を通して育む「問題解決力」

自然のもので「こう遊びたい」という思い・願いをもち、進んで身近な自然と繰り返し関わることで、友達の活動と自分の活動を「比べ」たり、友達と考えを伝え合ったり、影響を与え合いながら、自分自身の思い・願いを実現させようとするところから「問題解決力」を育む。

本単元を通して上記のプロセスを経験できるようにするとともに、単元終盤において思い・願いが実現された成就感・達成感を感じられるようにすることで、気づきがより自覚的になり、その実現に至った自分自身への気づきとなることで、次の学びがより円滑に進められるようになることを考える。

6. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 身近な自然の様子や特徴に気付いている。 イ 身近な自然を利用して遊べることに気付いている。 ウ 約束やルールが大切なことやそれを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。	ア 諸感覚を使って、身近な自然を観察している。 イ 身近な自然から、遊びを考えたり、使ってみたいものを見付けたりしている。 ウ 比べたり、試したりして遊びを工夫している。 エ 季節と自分の関わりや遊びを工夫したことを自分なりの方法で表している。	ア 身近な自然に目を向け、関心をもって関わろうとしている。 イ 体全体を使って身近な自然と触れ合ったり、思いや願いをもって遊びや遊びに使うものをつくったりしようとしている。 ウ 身近な自然と関わり、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりしようとしている。

7. 単元計画

時数	○主な学習活動	評価の観点			学び合いの過程 手立て
		知	思	主	
1	○附小の森に春が来ているかどうか考える。 ・春だと思ふよ。 ・まだ春じゃないと思ふよ。 ○春の特徴と言えるものを考える。 ・たんぽぽが咲いているよ。 ・たんぽぽは、夏でも咲いているよ。 ・実際に外に行ってみないとわからないね。		ア	ア	手立てⅠ ・立場を明確にしてから、はじめて附小の森に出ていくことで、自然の事物に着目しながらかかわっていくことができるようにする。
2	○附小の森にあった春のものといつでもあるものを分類する。 ・「春の生き物図鑑」にのっているものがたくさんあったよ。 ・こんなに春のものがあるんだね。 ・春と言ってよさそうだね。 ・春のものは春が過ぎたら、こんなにきれいじゃなくなるよ。 ・もっと春のもので遊びたいね。	ア			手立てⅠ ・児童の春のものを探したいという思いに合わせ、「春の生き物図鑑」と「春の附小の森地図」を提示する。 手立てⅡ ・全体交流の場で児童が発表したものを、「春のもの」「いつでもあるもの」というキーワードを基に分類して整理し、考えの共有化を図る。
3	○附小の森にあった春のものをたとえながら、できそうな遊びを考える。 ・武器になりそうな木の棒を見つけたよ。 ・色んなお花集めをしたいよ。 ・きれいなお花があったから、飾りを作ってみようかな。		イ		手立てⅠ ・児童の春のものを集めたいという思いに合わせ、ビニール袋を提示する。 手立てⅡ ・全体交流の場で児童が発表した際、「遊ぶ」「作る」というキーワードを基に、自然物と遊びを整理して視覚化し、枝を用いた剣遊び等動作化を促すことで、考えの共有化を図る。
5 (本時)	○附小の森で遊びながら、もっと楽しく遊ぶ方法を考える。 ・階段の近くにたんぽぽがたくさんあるから、たんぽぽのかんむりをたくさんつくれそうだよ。 ・2年生の教室の近くにはわすれなぐさがあるから、少し摘んで飾りを作ったよ。 ・池は、水があるから船のボートで遊んで楽しいよ。		ウ		手立てⅠ ・児童の自然物を加工したいという思いに合わせ、ひもや画用紙、はさみ等の道具を提示した「工作コーナー」の場を設定する。 手立てⅡ ・全体交流の場で児童が発表した際、「友達」「材料」「場所」というキーワードを基に、枝を用いた剣遊び等動作化を促すことで、考えの共有化を図る。
10	○単元の学習で心にのこったことを絵や文、写真、押し花を用いて表現し、振り返る。 ・春は素敵なものがたくさんあったよ。 ・すごく楽しく遊べたよ。 ・もっと外で遊びたいよ。 ・これからも、ルールを守って楽しく遊べそうだね。		エ		手立てⅠ ・児童の気づきが位置付けられた「春の附小の森地図」を提示し、単元導入時との比較を促す。

8. 本時案

(1) 本時の目標

自分なりの思いや願いをもって附小の森での遊びを行う中で、友達と自分の考えを比べたり、友達の真似をしながら遊びを試したりして、楽しく遊ぶことができる。

(2) 本時の展開 (5 / 10)

学習活動 児童・生徒の姿 ○教師の働きかけ・発問 (△補助発問, □指示・説明) 手立て	【評価の観点】 ◇評価の内容 ・指導上の留意点												
<p>1 前時までの活動を想起し、どんな活動をしたいのか考える。</p> <p>○前時での気づきが位置付けられた地図を提示し、活動の想起を促す。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;">・ 凧を作ったから、もっと飾りたいよ。</td> <td style="width: 33%; padding: 5px;">・ 弓矢をもっと飛ばようにしたいよ。</td> <td style="width: 33%; padding: 5px;">・ 水をもっとためて、つりをしたいよ。</td> </tr> </table>	・ 凧を作ったから、もっと飾りたいよ。	・ 弓矢をもっと飛ばようにしたいよ。	・ 水をもっとためて、つりをしたいよ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 春の附小の森地図を掲示しておく。 									
・ 凧を作ったから、もっと飾りたいよ。	・ 弓矢をもっと飛ばようにしたいよ。	・ 水をもっとためて、つりをしたいよ。											
<p style="text-align: center;">はるのふしょうのもりでもっと〇〇してあそぼう</p> <p>○本時の見通しと活動のルールを簡潔に確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見通しとルールを掲示しておく。 												
<p>2 自分の思いや願いに合わせて、附小の森で遊ぶ。</p> <p>○児童の活動に合わせて、ブルーシートや座卓を設置した場の設定や画用紙等の道具の提示を行っておく。 手立て I</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供たちの活動の写真を撮影し、地図に位置付けることができるようにする。 												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;">・ 飾りに使うお花をもっともってこよう。</td> <td style="width: 33%; padding: 5px;">・ 毛糸だとだめだったから、ゴムをつけてみよう。</td> <td style="width: 33%; padding: 5px;">・ よーし、水をもっと溜めるぞ。</td> </tr> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;">・ ポンプ室の横にたくさん咲いていたから、そこからとってこよう。</td> <td style="width: 33%; padding: 5px;">・ 枝にゴムをつけられた。</td> <td style="width: 33%; padding: 5px;">・ バケツでどんどん汲むよ。</td> </tr> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;">・ 前よりにぎやかでよくなってきたな。</td> <td style="width: 33%; padding: 5px;">・ あれ?でもよく飛ばないぞ。</td> <td style="width: 33%; padding: 5px;">・ 次は〇〇くん運んで。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="padding: 5px;">・ 溜まってきたね。</td> </tr> </table>	・ 飾りに使うお花をもっともってこよう。	・ 毛糸だとだめだったから、ゴムをつけてみよう。	・ よーし、水をもっと溜めるぞ。	・ ポンプ室の横にたくさん咲いていたから、そこからとってこよう。	・ 枝にゴムをつけられた。	・ バケツでどんどん汲むよ。	・ 前よりにぎやかでよくなってきたな。	・ あれ?でもよく飛ばないぞ。	・ 次は〇〇くん運んで。			・ 溜まってきたね。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動が停滞している児童がいた場合、他の児童と繋ぐ働きかけをすることで、活動を促す。
・ 飾りに使うお花をもっともってこよう。	・ 毛糸だとだめだったから、ゴムをつけてみよう。	・ よーし、水をもっと溜めるぞ。											
・ ポンプ室の横にたくさん咲いていたから、そこからとってこよう。	・ 枝にゴムをつけられた。	・ バケツでどんどん汲むよ。											
・ 前よりにぎやかでよくなってきたな。	・ あれ?でもよく飛ばないぞ。	・ 次は〇〇くん運んで。											
		・ 溜まってきたね。											
<p>3 全体で気づきを交流し、友達の考えと自分の考えを比べたりしながら、後半の活動について考える。</p> <p>○児童が発表した際、「場所」「材料」「友達」といった視点を内在している発言をする児童がいた場合キーワード化したり、発展性のある遊びについて動作化を促したりすることで、考えの共有を図る。 手立て II</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発展性のある遊びを行っている児童を意図的に指名し、気づきが共有されるようにする。 												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="3" style="padding: 5px;"> ・ ポンプ室の横にタンポポがいっぱいあったから、つけたらよかった。 ・ みんなで水を持っていったら、水が溜まってきた。 ・ 毛糸をゴムに変えて、前よりはよくなったんだけど、あんまり飛ばない。 ・ やってみせて。(やってみたい。) ・ 枝が曲がってるから引っかかかってるんじゃない? ・ 枝はあっちにたくさんあったよ。 ・ 協力して探したら、早く見つかるかも。 </td> </tr> </table>	・ ポンプ室の横にタンポポがいっぱいあったから、つけたらよかった。 ・ みんなで水を持っていったら、水が溜まってきた。 ・ 毛糸をゴムに変えて、前よりはよくなったんだけど、あんまり飛ばない。 ・ やってみせて。(やってみたい。) ・ 枝が曲がってるから引っかかかってるんじゃない? ・ 枝はあっちにたくさんあったよ。 ・ 協力して探したら、早く見つかるかも。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流を受けて活動を変容させている児童を価値付ける。 									
・ ポンプ室の横にタンポポがいっぱいあったから、つけたらよかった。 ・ みんなで水を持っていったら、水が溜まってきた。 ・ 毛糸をゴムに変えて、前よりはよくなったんだけど、あんまり飛ばない。 ・ やってみせて。(やってみたい。) ・ 枝が曲がってるから引っかかかってるんじゃない? ・ 枝はあっちにたくさんあったよ。 ・ 協力して探したら、早く見つかるかも。													
<p>4 全体交流を通して明確になった自分の思いや願いに合わせて、附小の森で遊ぶ。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;">・ わたしもタンポポ畑で摘んでみよう。</td> <td style="width: 33%; padding: 5px;">・ まっすぐな枝はどこかな?一緒に探そう。</td> <td style="width: 33%; padding: 5px;">・ よし、いよいよつりをやるぞ。</td> </tr> </table>	・ わたしもタンポポ畑で摘んでみよう。	・ まっすぐな枝はどこかな?一緒に探そう。	・ よし、いよいよつりをやるぞ。	<p>【思】</p> <p>◇比べたり、試したりして遊びを工夫しているか。</p>									
・ わたしもタンポポ畑で摘んでみよう。	・ まっすぐな枝はどこかな?一緒に探そう。	・ よし、いよいよつりをやるぞ。											
<p>5 本時の活動を振り返り、次時に対する自分の思いや願いを明確にする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;">・ 豪華になったから、今度は違う花も付けたい。</td> <td style="width: 33%; padding: 5px;">・ 弓矢が飛ぶようになってきたから、もっと飛ばしたい。</td> <td style="width: 33%; padding: 5px;">・ 虫は釣れなさそうだから、次は釣る物を作りたい。</td> </tr> </table>	・ 豪華になったから、今度は違う花も付けたい。	・ 弓矢が飛ぶようになってきたから、もっと飛ばしたい。	・ 虫は釣れなさそうだから、次は釣る物を作りたい。										
・ 豪華になったから、今度は違う花も付けたい。	・ 弓矢が飛ぶようになってきたから、もっと飛ばしたい。	・ 虫は釣れなさそうだから、次は釣る物を作りたい。											